

# 解 説

「Metabo CHART」では、  
血液中の「超悪玉コレステロール」の詳細解析情報から、  
メタボリック・シンドローム、動脈硬化の進行リスクを早期判定します。

## 超悪玉コレステロールとは？

- ◆ コレステロールは血液中に存在する脂質の一種で、細胞膜やホルモンの原料として必須の物質です。血液中ではリポタンパク質と呼ばれる粒子により運ばれますが、その中の「LDL」という粒子が全身にコレステロールを届ける役目を果たしています。LDLが増えすぎると、その中のコレステロールが血管にたまり動脈硬化を引き起こすため、これは「悪玉コレステロール」と呼ばれています。
- ◆ 最近の研究により、「悪玉」の中でも特に悪い働きをする「超悪玉」の存在が明らかとなってきました。「超悪玉」とは、粒子サイズの小さいLDL(小型LDL)粒子のことを指します。小型LDL粒子に含まれるコレステロールの量は「超悪玉コレステロール」と呼ばれており、動脈硬化発症の危険性を見るために特に重要な指標といわれています。

「Metabo CHART」では、「悪玉(LDL)粒子サイズ」と「超悪玉コレステロール値」の2つのデータがわかります。

## 超悪玉コレステロールと、動脈硬化との関係

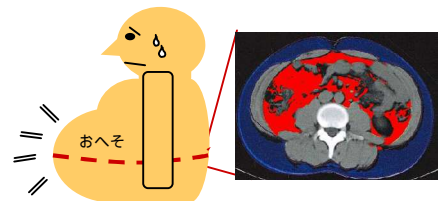
- ◆ コレステロール値が高くなった場合に引き起こされる、最も重大な病気が、動脈硬化です。心臓や脳の血管、あるいは心臓から全身に血液を送り届ける重要な血管が、詰まったり、破れたりするため、命に関わる恐ろしい病気で、LDL粒子中の「悪玉コレステロール」値が高いと危険度が高くなります。
- ◆ 「超悪玉」である小型LDLは、特に動脈硬化を強く引き起こすことが明らかとなっています。小型LDLを持つ人は心筋梗塞発症率が約3倍も高いというデータもあり、「超悪玉コレステロール」に注目が集まっています。

「Metabo CHART」では、動脈硬化発症リスクを早期に判定することができます。

## 超悪玉コレステロールと、メタボリック・シンドロームとの関係

- ◆ メタボリック・シンドロームとは、内臓脂肪がたまることによって引き起こされる高脂血症・高血圧・糖尿病といった生活習慣病を、複数あわせ持つ病気のことです。生活習慣病それぞれの程度は軽くても、積み重なることによって、狭心症や心筋梗塞・脳梗塞を引き起こす可能性が飛躍的に高まります。

厚生労働省の調査によると、メタボリック・シンドローム該当者または予備軍は、40歳～74歳の男性の2人に1人、女性の5人に1人にのぼるとされています。

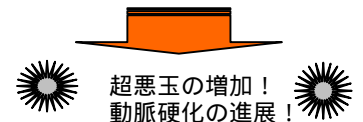
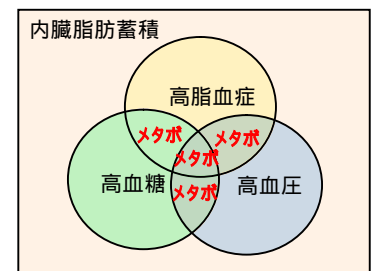


- ◆ 「超悪玉コレステロール」は、内臓脂肪がたまるほど、血液中に多くなることが明らかになっています。また、危険因子となる生活習慣病との関連が深いことも知られています。

- 高脂血症・・・中性脂肪が高値だと、「超悪玉」が増加します。
- 糖尿病・・・インスリン抵抗性が強いと血糖が高くなり、「超悪玉」が増加します。
- 高血圧・・・血圧が高いと、「超悪玉」が増加します。

このため、メタボリック・シンドロームの潜在的なリスクを把握するためには、「超悪玉コレステロール」に注目することが大切です。

「Metabo CHART」では、  
メタボリック・シンドロームの進行リスクを判定することができます。



超悪玉コレステロールの解析が、  
メタボリック・シンドローム、動脈硬化の早期リスク判定には重要となります。

### 注意事項

「Metabo CHART」は、動脈硬化性及び他のいかなる疾患について、その有無を最終的に診断するものではありません。危険領域あるいは注意領域にあると判定された方は、専門医にご相談されることをお勧めします。また、メタボリック・シンドロームの実際の診断についても、各種所見とあわせた医師の判断を仰いで下さい。

解説監修： 山下静也  
大阪大学医学部附属病院  
循環器内科・病院教授